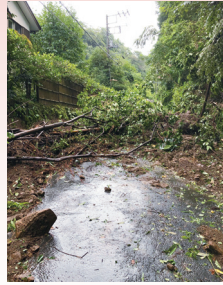


## 私が体験した台風15号被害

9月8日の夜から翌9日の明け方4時頃まで強い風雨の音を聞きながら起きていました。ふと眠ったのだと思います。6時半にご近所の方からの電話でとび起きました。住んでいる谷戸の道路2カ所が土砂崩れで通れないというのです。



その方と主人、私でチェーンソーを持って現場へ。倒木の枝を切り、1カ所は車両通行可能にできました。もう1カ所は多くの住人の協力があり、歩行可能にはできましたが、土砂の撤去はできませんでした。しかしこれは、いざとなれば住民の有志で力を合わせることができる、という実感が持てる出来事でした。

### ◎恐れていた事態が発生

そうこうしているうちに、「玄関が開かない。2階の窓が倒木で突き破られている。山が崩れてきた」と二階堂の方からの連絡が入りました。この場所は、危険だと2年前から住民や地主さんと話し合い、危険樹木を伐採する市の「樹林管理事業」を活用し、今月の初め、伐採の申請にこぎ着け、この冬には切ってもらえると少しほっとしていた矢先の事故発生でした。

住民12軒25人の住宅地ですが、出入口が塞がれ、停電、倒木、崩落、孤立状態が始まったのです。

### ◎自衛隊の投入と地域の互助

10日、建設業者も対応できず自衛隊の投入が決まり、11日早朝から、撤去作業が始まりました。町内会の方々も、発電機の持ち込み、食事の手当て、鎌倉宮などの避難所の開設など協力しました。13日、自衛隊の作業は終了、電気も通り、人も歩けるようになりました。まだ

これから多くのことを乗り越えなければなりません。緑は癒やしにもなるし災害時の凶器にもなる、地域の助け合いが力を持つことを実感させられました。



## ブログ「いやさか通信」から

### 十二所神社お祭り宵宮



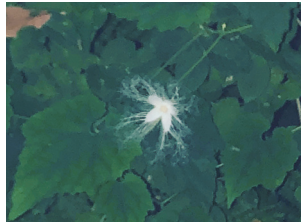
例年のように盛大で楽しいお祭り、二中の吹奏楽、子ども会の南中ソーランダンス演技、町の絆を感じるタベとなりました。私も篠笛で参加(9/7)。

### 令和元年 総合防災訓練



山崎浄化センターでの開催。消防、自主防災組織、ドローン協会など鎌倉市の16もの機関が連携しての訓練です。ペット同伴の避難者対応なども(8/27)。

### 今年もカラスウリの花が



夕闇が宅間谷戸をつつむ頃、いつ見ても神秘的な花が咲きました。暗闇にぼっかり浮かぶ白い花。雷からは想像もつかない花形は不思議です(8/21)。

### 2020ヨット競技のテスト見学



腰越漁港から船を出してのテストイベント観覧。レース会場は江ノ島から葉山に向けて6コースが設けられるそうです。来年の成功を祈りつつ帰港(8/18)。

### よりともジャパン、三島市にて



3年前に立ち上がった観光推進議員連盟。総会打ち合わせのため三嶋大社祭りに伺いました。頼朝ゆかりの市町が加盟し、私が会長を務めています(8/17)。

### フレイル予防事業が進行中



みらいふる鎌倉と市の協働で、元気な高齢者をつくる事業が始まりました。市内を8地区に分けて講習会を開きながら活動中。筋肉を鍛えましょう(8/14)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。  
<http://www.maekawa-ayako.net>

## 共育のまち、鎌倉をつくろう

【発行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-10-8  
【E-mail】info@maekawa-ayako.net



9月9日未明、鎌倉を襲った台風15号は、市内最大約12,000軒が停電、倒木やがけ崩れ、浸水など500件を超える被害をもたらしました。市は台風の接近を受けて8日午後4時に災害対策本部を設置して備えましたが、広域に多数の被害が発生したため、その対応に今後の課題も残りました。自衛隊による災害派遣は、神奈川県では18年ぶりでした(2019.9.9)。



# 前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい

議会運営委員会副委員長

教育・こどもみらい常任委員会副委員長

政策法務研究会メンバー

レポート

No.62

2019,10発行

## 2019年9月議会からのご報告・他

- 1 私が体験した台風15号被害
- 2 障がい児支援事業の充実を
- 3 鎌倉漁港整備の進捗状況
- 4 台風被害、今後の問題点

## 障がい児支援事業の充実を

私は1期目から課題があるお子さんへの支援の必要性を感じ、この課題と向き合ってきました。H23年には詳細な質問と問題提起もしました。それから8年、状況の変化もあり、市も努力をしてきましたが、今も親たちの不安は解消されていないと感じます。そこで改めてこの課題を取り上げます。

### ◆5歳児すこやか相談の充実

鎌倉市では市内の幼稚園や保育園を通して、相談表を配布回収する「5歳児すこやか相談」をH20年度から実施しています。保護者から相談があれば、行動観察や個別相談も受けています。

問題は、支援を必要とする児童の数が年々増えている中で、市外への通園者や未就園児童保護者への通知が漏れていること。全ての子どもが支援を受けられるよう、100%の周知を目指すことをお願いします。

### ◆幼稚園・保育園での取り組みと支援

市内の幼稚園・保育園では、発達障がいを含む支援を必要とする子どもの受け入れが進んでおり、その特性に応じた支援を行っています。これら園と民間保育所等に対して、市では補助金を交付し、毎年少しずつ増額されています。

補助金によって指導者を雇用する方法もありますが、例えば市が巡回支援員のようにして、複数の人材を発達支援室で確保し、園からの要請に応じて派遣、人材を共用・活用することも有効でしょう。

### ◆不安や悩みを受けとめる親支援を

障がい児支援の第1歩は、保護者自身の不安や悩みを受けとめることから始まります。児童の行動に対する親の対応を学ぶペアレントトレーニング。あるいは保護者同士の会などの運営を市が支援するなど、保護者支援の充実を図る必要があります。

### ◆専門的支援、あおぞら園の役割

課題がある子どもに専門的立場からの支援が必要と認識した鎌倉市は、50年前他の市町村に先がけて、通園訓練施設として「あおぞら園」を開設。ここに通わせるために、近隣市から鎌倉への移転を考える保護者がいるほど重要で、成果も収めてきました。

しかし今、社会的ニーズも大きく変化し、自治体の対応スピードを遥かに超えるようになり、定員割れとなる状況です。そこで市の発達支援室とあおぞら園の機能を明確にする。発達支援室では相談や幼保、学校等の障がい支援などアウトリーチ型の支援を充実させる。また発達支援センター「あおぞら園」では、民間の力を活用して障がい児支援を行い、保育士等の人材を育成する。このような方法で現実に対応して行く必要があるのではないのでしょうか。

### ◆生涯にわたり継続した支援を

障がい児支援は、幼保から小学校へ、そしてその後も継続して行われることが重要です。例えば小学校では介助員や発達支援サポーターなど様々な方が揃っています。しかしここで重要なのが就学前の取り組みが小学校の担任に伝わらないなど、情報が途切れること。発達支援室ではサポートファイルを使っていますが、生涯にわたる記録とし、就学後も活かせる切れ目のない支援が必要です。

### ◆質問への回答は市民への約束

今回の一般質問の準備をするなか、H23年に同じような内容を質問し、答弁頂いた内容がそのまま実践されておらず、同じ質問を繰り返していることに気づきました。答弁内容の誠実な実行こそ、行政の務めではないのでしょうか。



## 鎌倉漁港整備の進捗状況

平成30年度には、施設整備のための「静穏度調査解析等業務委託」を実施。これは波の穏やかさと停泊する際の安全性を検証するもので、適地であると判断されました。さらに現在「水産業振興推進計画」をつくるための推進委員会が進められており、ここでも漁業支援施設は必要であると確認されています。

今年度は第4期基本計画の策定、実施計画の策定が行われますが、これに対し市長は「鎌倉地域の漁業が長い歴史の中で営まれ、海を守り、後継者が育っている状況が認められるようになってきました。第4期基本計画が定められ、その実施計画に漁業支援施設、つまり鎌倉漁港建設について記載がされることを、大いに期待する」と発言しています。

### 今回の台風被害で明らかになった問題点

#### ① 市民からの通報に対する市役所の対応

対応が遅い、現地に見に来ない等の意見も寄せられています。これは市が災害の全貌をつかめず、質問に即座に答えられないことも原因。災害通報に対して、電話応答と同時にデータ化して、データを見ながら対応できるシステムを直ちに作るべきです。

#### ② 緑管理は現在の危険木対応だけでは間に合わない

台風通過後、山を見ると上部での倒木、崖崩れが途中で止まっている箇所が多数。危険は続いています。県・市・民有と複雑に入り組む中、1本の伐採料が100~200万円かかるものもあり、喫緊の重要施策として取り組むべきです。

#### ③ 住民の普段からの危機意識と協力が欠かせない

今回も、発電機の提供、避難所の提供、食事の配布など町内会の大きな協力があり、有志による作業もありました。日頃のコミュニティ活動があればこそです。一方、避難所が何処にあるか知らない人も。日頃から災害に注意を向けておく必要があります。

#### ④ 誰の言うことを信じるか

いつ道路が開通するのか、電気が来るのか、連絡が無いのが大きな不安だったとの意見が寄せられています。市の広報や町内会ルートを活用する必要があります。また、電気はいつ来るなど、事実が意見が解らないことを言う人もいます。住民も現地に居る市職員からの通知以外は、確認する姿勢が必要です。